

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271200857		
法人名	医療法人社団 斎心会		
事業所名	グループホーム偕楽園		
所在地	千葉県松戸市西馬橋幸町25番地		
自己評価作成日	平成24年1月27日	評価結果市町村受理日	平成24年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成24年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、個々のペースを尊重し、少人数だからできる手厚いケアを目指しております。
また、医療面においては、同法人の介護老人保健施設が併設しており、随時医師・看護師の協力が得られる。
地域活動にも積極的に参加し、地域密着型ホーム作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(医)社団斎心会が運営する1ユニット定員6名の少人数で、極めて家庭的なグループホームである。馬橋駅前徒歩1分という好立地で、法人の運営する老人保健施設、デイサービスセンター、在宅支援センターなどが同じビルの中にあり、連携しながら多彩なサービスが受けられる。比較のお元気な方が多く、生活の中にそれぞれ何らかの役割を持ち、まち中で気軽に買い物や外出を楽しむなど、地域との交流を図りながらグループホームらしい運営を行っている。管理者・計画作成担当者を中心に毎年改善課題を設定してホーム運営に取り組んでおり、アンケート調査での利用者満足度は着実に向上し高い信頼を受けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている		ホームの理念に基づき4つのケア方針を定め、グループホーム発足の原点に立ち、地域密着の精神に基づく家庭的なサービスを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町会行事や地域活動に参加させていただき交流を深めている。	虹のまち町内会の納涼祭や餅つき大会、防災訓練などの諸行事へ積極的に参加している。また、小学生の下校時の見守りや、認知症パンフレットを作成して地域に発信するなど地域貢献を図りながら交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を深める為に資料を作成し配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に行い、毎回町会長・民生委員・地域包括支援センター・家族・利用者等と話し合いをもっている。	2か月に1度地域代表や地域包括の職員、利用者家族などの参加を得て、活動報告や事故報告などを行いホームへの理解を深めるとともに、地域や家族との連携の在り方などについて話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れをしてお互い意見交換をしている。又、松戸市グループホーム協議会においても市の職員が参加される時があり、そこで関わりを持つよう努めている。	市との対応窓口は法人の事務局が中心となっているが、ホームとしてはグループホーム協議会などに市職員が参加される時に積極的に交流を図るよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立地上出入り口の施錠は行っているが、職員が入居者の身体的・精神的な自由を守るよう心掛けている。	身体拘束は悪循環を招くとの考え方にたちホームの方針として一切行っていない。また、定期的に研修も実施し職員の理解を深めている。比較的元気な方が多く、現在拘束が必要な利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い虐待防止の意識を高めている。又、日々の身体チェックや精神状態・行動観察に気を配り、僅かなシグナルも見逃さないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内に資料やパンフレット等を備えており、職員がいつでも目を通せるようになっている。又、管理者は権利擁護の研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	併設介護老人保健施設の支援相談員と協力し、入居者・家族共にすべての面において十分納得していただくような説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見を傾聴し、家族にも面会時に意見・要望を聞き対応できるように努めている。	現在入居者は5人と少人数であり、家族の来訪は少ない方でも月1～2回はある。ホームの諸行事への家族の参加も多く、コミュニケーションは良い。直接本人に対する聞き取りアンケートなども実施し、要望を受け止めている。	管理者は家族との交流、コミュニケーションをさらに深めたいとの考え方をもち、検討を進めている。より良い関係の構築に向けて尽力願いたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフミーティングを開催し、管理者及び職員で意見交換をしている。	職員間のコミュニケーションはよく、随時気づいたことを話し合っている。また、毎月ホームのスタッフミーティングで話し合うとともに、管理者は法人の定例幹部会で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりの業務状況・実績の把握、又は職員の意見を聞きやりがいをもち、働くことができるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が各種研修会に参加できるよう体制を整えている。又、併設介護老人保健施設と合同で勉強会やセミナーを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市グループホーム協議会に参加し、管理者だけでなく職員も交流会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の要望に耳を傾け、可能な限り入居者の希望に沿えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後に家族との面談を十分に行い、家族の求めていることを理解するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者及び家族の意向を踏まえた対応ができるよう、併設介護老人保健施設の支援相談員と共に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	思いやりを持ち、共に過ごし、入居者にとって居心地のいい場所になるよう信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と入居者に関しての情報交換を行い、入居者の意見を家族に伝え、相談し、共に支える環境を作るよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所について本人や家族からヒアリングをし、可能な限り関係が続けられるよう支援している。	これまでの生活習慣を大切にし、馴染の方の訪問を歓迎している。町会の老人会に参加したり、家族やお孫さんと出掛ける方もいる。馴染の方や思い出の場所を大切にし関係継続が出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数の為孤立することはないが、入居者同士が関わりあえるよう職員が間に入り関係を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、相談等がある場合には対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から本人の希望を読み取り検討・対応している。	日常かかわりの中での会話や表情から思いを把握している。思いを言葉で表せない方は仕草や表情から察してケアに臨んでいる。利用者の機嫌が悪い時には、すぐに原因について話し合い解決できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人又は家族に確認し、生活歴等を把握すると共に、本人の経歴を尊重し日々のケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の体調や状態等を把握し、それに合わせた一日の生活が送れるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人・家族・主治医等と話し合い、意見を反映させた介護計画を作成している。	アセスメント時に今迄の生活歴や利用者・家族の意向を聞き、受診時に医師とも話し合い、より良い介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い家族にも3ヵ月毎に説明し、了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を日々記入し、職員全員が常に情報を共有・把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況や要望等を踏まえ、サービスが画一的なものにならないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアや地域の公民館で行われている「ひまわりサロン」に参加、又、地域児童の「見守り隊」の活動に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の医師が月2回往診している。又、他の病院を受診した際は連絡表を持参していただいている。	協力病院の医師の月2回の往診の他、隣接の老健の看護師とは常に連絡をとれる体制が出来ている。かかりつけ医へ家族と受診したり、近くの提携医療機関での受診は家族の了解を得て、職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師や併設介護老人保健施設の看護師に相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員及び併設介護老人保健施設の支援相談員が協力して病院のソーシャルワーカー等との情報交換・相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は原則行っていない。入居時に告知し、家族・入居者が納得のいくよう説明している。	入居時にホームとしての方針もきちんと伝えて、本来のグループホームらしい運営に努めている。重度化した場合には家族との話し合いにより、併設の老健などグループ全体で適切なケアの提供ができる仕組みがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応における施設内研修・マニュアル等により実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設介護老人保健施設と合同で避難訓練を行っている。又、町会の防災訓練に職員・入居者と参加している。	関係施設全体での避難訓練を年2回実施している。建物は二つのビルが各階ごとに連絡通路でつながっており、避難訓練時には隣の建物に移動させ安全を確保している。食料の備蓄も3日分準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、思いやりを持った声掛けや対応を心掛けている。	入居者の尊厳とプライバシーに配慮した接遇に努めている。居室への出入り口のガラス窓にはよしずを掛け、援助の必要な時の声掛けもさりげなくを心掛けている。個人情報の取り扱いには事務所内で管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人のレベルに合わせた対応をし、自己決定できるような声掛け・働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人の希望を傾聴し、出来る限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみの支援や、外出時の化粧等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好と栄養バランスを考慮しつつ、入居者と共に献立を考え、準備し、食事を楽しんでいる。	昼食はホームで作っている。入居者の希望や栄養バランスにも配慮して献立を考え、食材は近くのスーパーへ買い出しに出掛ける。旬の物を大切に、全員参加で食事やおやつ作りを楽しんでいる。車での外出時には外食を楽しむことが多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分の摂取量をチェックし、不足又は過剰の無いように調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。又、歯科医師から口腔ケアの指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、入居者一人ひとりの排泄パターンを精神面を考慮しながら対応している。	排泄の不安に対しては、排泄チェック表を利用し、失敗の無いよう声掛けや誘導を行っている。身体状況によって、介助の方法を変え、羞恥心にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を多く含んだ食事を提供している。又、毎日体操や散歩等の適度な運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	併設のデイケアと入浴室が共同である為、入浴時間帯は決められているが、可能な限り希望に沿って支援している。	浴室は併設のデイケアと共同であるが、銭湯のように広々として2～3人が一緒に入っている。午後入浴でゆっくりとくつろげるよう支援し、入浴を嫌がる方にはタイミングを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の入眠パターンを把握し、夜間安眠できるように日中は活動するよう促している。又、就寝時間は決まっているが、入眠を強制せず本人のペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全体が使用している薬の目的、用法・用量を確認し、服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりに合わせた役割分担をし、生活意欲の向上に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から散歩・買い物等を多く持つようにしている。又、季節に応じて外出の機会をつくっている。	駅から1分という立地条件の良さで食材や日用品の買い物にも良く出掛けている。地域の小学校の見守り隊には交代で参加し、屋上の菜園も楽しんでいる。季節に応じて名所や公園等へドライブし、戸外へ出掛ける事を楽しんでいる	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では金銭は職員が管理しているが、希望により外出時は各個人に財布を持たせ、金銭の出納ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から希望があった場合は支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居心地の良い空間作りを心掛けており、室内装飾等で季節感を感じることができるよう工夫している。	リビングに続く和室には炬燵が設置され、くつろいで過ごせるように工夫している。昇降口やエレベーターでの移動は職員が安全に配慮している。室内には利用者の作品や写真が飾られ季節感が感じられる。	業者により毎日掃除がなされ、清潔には十分配慮されているが、共同で使うトイレや洗面所等にも安らぎを感じられるような工夫が欲しい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・居間以外にもソファ等を配置し、入居者同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者及び家族と相談の上、過ごしやすい空間になるようにしている。又、使い慣れた物や好みのものを持ち込むよう勧めている。	入居時には馴染の物を持ち込んでもらうよう話しているが、利用者の居室はすっきりと片付き、安全にも配慮されている。季節の衣類の交換等は家族や職員と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりのADL・生活リズム・習慣等を把握し、それに合わせた環境作りを心掛けている。		